論文要旨

〔目的〕日本で出生前検査（確定診断）を行っている施設は約 27%に過ぎず、多くの出生前検査（以後、検査と略す）を実施しない施設では検査の相談は行われていない。検査についての相談を希望する妊婦は、慣れない初めての医療機関を受診せざるを得ない。本研究は、このような状況にある妊婦が検査に関する知識や自らの価値観を確認し、自分の意向を、医療者により円滑に伝えるための Decision-Guide（以下、DG と略す）の開発を目的とした。

〔研究方法〕研究デザインは、DG を作成し、その評価を行う記述的研究である。研究の手順は 3 段階から成る。第 1 段階は、文献検討と DG（試作版）の作成、第 2 段階は、研究協力者 16 名による DG（試作版）の評価の実施、評価は、「1.構造　2.内容　3.活用」から成る。第 3 段階は、評価の分析及び、修正版の作成である。

〔結果〕評価を得た研究協力者の構成は、患者支援組織者より 1 名、検査を実施しない施設にいる助産師 3 名と産婦人科医師 2 名、認定遺伝カウンセラー2 名、意思決定支援に関する研究者（助産師）3 名、臨床遺伝専門医（産婦人科医）2 名の計 13 名である。

DG の内容は、「1. DG を作成した意図　2. 検査の特徴　3. 意思決定ガイド（オタワ個人意思決定ガイドを参考）4. 紹介先（検査を行う施設）で妊婦が事前に伝えるべき内容とその方法　5. 紹介元の医療スタッフが、妊婦の意向を支持する姿勢」を含んだ、A4 版 15 項の冊子体とした。研究協力者 13 名から得た評価は、本 DG が、妊婦にとって必要である（9 人）、意思決定を支える（10 人）、と支持を得た。一方で、1. 構造について、用語の表現・使い方について見直す　2. 内容について、①検査のより詳細な情報・知識を盛り込む　②妊婦の考え、価値観に触れる　③受検の有無を選択した後の見通しを加える　3. 活用について、本 DG を医療者が有効活用できるような手引書があると良い、という指摘・助言を得た。改訂にあたり、DG の構造について、タイトルを含めた、用語の使い方について、全ての指摘事項を検討した。内容は、検査について考える際の留意点を示すだけではなく、検査に関するメリット・デメリットを含めた知識を盛り込んだ。検査について考える前に、妊婦自身の考えや価値観に触れ、具体的に考えたいこと、整理したい項目を作成した。受検後の見通しについては、人工妊娠中絶に関して、重点的に触れた。そして、活用について、「医療者向けの手引書」を追加作成し、妊婦の検査に関する意思決定過程への支援を、紹介元の看護職（助産師）が実践できることを目指した。

〔結論〕本 DG は、検査を考える前に、妊婦の考えや価値観を整理し、検査についてのメリット・デメリット等の情報提供を明示する等の改善点が指摘された。本 DG は、紹介元と紹介先の継続したケアにつながることが期待できる示唆を得た。今後は、臨床現場で妊婦と医療者が実際に DG を活用した際の評価を得て洗練させていく。